佐賀市民版脱炭素ロードマップ（佐賀市地域循環共生圏づくりワークショップ）

カテゴリー		2030	2040	2050	（目指す姿）
エネルギー	生産・事業者	スマートグリッドが導入されている 再エネの活用が進んでいる 再エネの効率向上が進んでいる 森林バイオマスの利用が進んでいる 農業廃棄物のペレット化が始まっている 小水力発電が広がっている メタンガス発電が始まっている	エネルギーの開発ラボを活用している 大小すべての河川・用水路で発電している 森林バイオマスが最大活用されている 農業のAI化により省エネが進んでいる	地産地消型の再エネをエネルギーとして供給している その際のエネルギー効率が極めて高い 化石燃料の消費はゼロ	地産地消型のエネルギーを開発・活用するためのラボや制度があり、暮らしも産業も脱炭素化型のまち
	消費・生活者	ペレットストーブの利用が進んでいる 省エネが進んでいる	市内の家庭や事業者の脱炭素化が進んでいる	限りなくゼロエネルギー消費の暮らしをしている エネルギーはすべて地産地消型の再エネを利用	
	制度など	薪を活用した地域通貨など地産地消型の再エネを促進する制度がある 同居の優遇など脱炭素への移行を促進する施策がある 省エネを促進する施策がある BtoCのグリーンエネルギー企業マークなど事業者の取り組みを後押しする制度がある	佐賀市内の家庭や事業者の脱炭素化を進める制度がある	省エネをしやすい仕組みや地産地消型の再エネを促進する仕組みがあり、十分に活用されている	
交通（移動）	生産・事業者	ハイブリット・EV車の生産比率が高まる クリークの交通利用が始まっている(水上タクシーなど)	EVを路面電車に利用 ハイブリット・EV車しか生産しない すべてのお店に駐輪場の設置が義務付けられている	化石燃料を使わないモビリティ 自動車は生産も利用もすべてEV EVの電源はすべて再生可能エネルギーでまかなえている 航空機の燃料はバイオ燃料100%となっている	市内のどこでも、自転車や徒歩、再エネ+EVなど化石燃料を使わないモビリティが実現しているまち
	消費・生活者	公共交通を多く使っている	ほとんどの場合、公共交通を使っている	全自動かつ効率的な移動ができる 多様な空間利用での移動をしている リモートワークがあたりまえになっており、通勤する人が半減している 可能な場合はすべての人が公共交通を使っている	
	制度など	炭素税など脱炭素型モビリティを促進する制度がある	コミュニティバスを含め公共交通網が発展している 道路に自転車専用レーンが設けられている	車の台数制限や駐車場の撤廃など、脱炭素型のモビリティのための制度がある	
食	生産・事業者	フードバンクの強化 福祉施設や子ども食堂、生活困窮者への提供 フードロスを減らす 食品残渣の完全飼料化 牛や豚のフンの完全肥料化 セルフサービス化→人件費削減→削減した分で商品の価値を下げる	環境に関して消費者ウケするデザインの商品を作り、ブランド化して若い人がその会社で働きたくなるようにする	季節商品の完全受注化などによりフードロスゼロ	食育と事業者・生活者の意識と取り組みによる食文化の再興にも資するまち
	消費・生活者	フードロスを減らす 地産地消の意識が広がる	コミュニティの形成 地産地消の実践が広がる	フードロスゼロ 地産地消が普通になっている	
	制度など	１つの企業が農業・畜産・飲食のサービスを一連で行うことができるように支援 地産地消のお店(飲食店)だけを特集したフリーペーパーの作成 環境問題や地産地消に取り組む企業を公表→製品を買ったら付加価値をつける（独自ポイント制度） エコな商品を作っている企業をブランド化	持っていることでステイタスを感じる商品で大きな収益をあげる会社を地元から出し、地域の活性化につなげる	食育の徹底 商品にならないものに価値をつけるしくみがある	食品ロスゼロ・医療費の削減および市民の幸福度の向上につながり、同時に、日本の食文化の再興にも資するまち
資源・ゴミ	生産・事業者	エコ商品の開発 量り売りのお店が増える	プラスチック代替品の開発 量り売りのお店がほとんど	ゴミのオール資源化 すべて量り売りで必要なものを必要な分だけ	ゴミの発生は最小限ですべて資源化されているまち
	消費・生活者	リユースをくりかえす 直して使う リサイクル紙パック(卵パック)などリサイクル製品を利用する	ごみにしない生活行動が広がる 量り売りのお店を積極的に利用する	ゴミゼロ レジ袋を使用しない ごみにしない生活行動が普通になっている	
	制度など	環境教育(マスコミを使って楽しく刷り込み) ペーパーレス化などゴミ減量を促進する制度がある	紙おむつの回収・再生システムができている 適正処理を厳格に進める制度がある	地域のなかですべてのものを循環させるしくみができている プラスチック製包装容器を作らない仕組みがある 合併浄化層の家庭への設置が行き渡っている	
住居・暮らし	生産・事業者	2031年までに新築住宅平均でZEH ハウスメーカーはすべてZEHビルダーに登録	断熱→省エネ→創エネ→蓄エネが進んでいる	ゼロエネルギー蓄電システムの家が普通になっている 送電網と充電のしくみが整っている	ZEB・ZEHなど再エネ利用省エネルギーは再エネにより100%まかなわれているまで孤立化しない暮らしができるまち
	消費・生活者	レジ袋は使わない（買い物袋持参）	緑地化が進んでいる	ZEB・ZEHで家庭のエネルギー漏れが最小化されている 地熱利用住宅が増えている 家庭で使う電気はソーラーパネルで発電している 年間一次消費エネルギー量の収支を±ゼロにする 家庭での資源循環 家庭のエネルギー消費を最小化するライフスタイル（節電・節水・節熱） ３世代で居住する世帯が50%以上 孤立化の減少	
	制度など	３世代同居世帯への補助 CO2の可視化ができている		暮らし方に関わるエコ教育システムが構築できている 断熱性能の高い住宅が普通になっている	
教育・人材育成	教える側 (生産者・事業者)	自分・目先のことではなく、周りのこと、将来のことを考える教育 脱炭素×豊かなくらしのイメージをもたせる教育	SDGsのように物事を複合的・総合的に考えさせる教育 生態系に配慮できる人材育成	暮らしのなかで生きた「学び」が生まれる	みんな環境問題に関心を持ち、正しく理解し、自分たちの地域の特徴や歴史を理解したうえで、次世代をはぐくむまち
	学ぶ側 (消費・生活者)	みんなが自分の地域の特徴や歴史を理解している 市民の誰もが環境問題に関心を持ち、学んでいる	北欧並みの環境意識が身についている 先生が教えるではなく、児童・生徒自ら取り組み、発信している 自分でできることから行動している	ストレスなく、みんなでイキイキ、ノビノビ育っている みんながグレタさんのように自分の意見や信念を主張できる	
	環境・制度など	ビオトープ整備士の育成の仕組みがある 事業所・団体同士の交流システムの構築 だれもが環境を語れるまち・ひとづくり 小中学校授業での地域学習時間の充実	自発的に考えて行動できる人が増えている	互いに認め合い、共に生きるまちになっている 環境人財NO.1都市になっている	
まち	生産・事業者	屋上緑化やグリーンカーテンが広がっている 自然を生かした街づくり計画 再生可能エネルギー活用が進んでいる グリーンインフラの整備が進んでいる	緑化が全域で推進されている 子供の遊び場の計画・実施が進んでいる まちでの再エネ活用が広がっている	緑化が全域で持続的に実施・実施されている 町での再エネ活用が普通になっている グリーンインフラが普及している	最新技術を駆使して、良さ・佐賀のコンパクトシティを生かしつつ、安全・安心な生活を送れるまち
	消費・生活者	地産地消50% 地域・市民のまちづくりへの参加が進んでいる 地域(地区)ごとに自慢できる自然を特定する	地産地消80% 地域・市民のまちづくりへの参加がいっそう進んでいる 地域(地区)ごとに自慢できる自然をつくる	可能なものはすべて地産地消している 地域・市民のまちづくりへの参加が普通になっている 地域(地区)ごとに自慢できる自然を持続的に維持している	
	制度など	地域通貨などまちを重視した施策が行われている 郷土愛を育む教育を充実させる 中心市街地の活性化に注力されている	自然と共有、子供が安全に遊べるスペース 商店街が復興している 自然環境が保全・維持されている	なんでもある佐賀(ふれあい、自然、IT、大学など)として、住みやすい都市NO.1になっている みどりが溢れて、空気がきれい 環境と経済が循環し、継続するまちになっている	
森林	生産・事業者	AIの活用により森林施業の省力化が進んでいる 間伐・主伐が推進されている バイオマス発電が市内で操業している 早く成長する木など森林関係のイノベーションが進んでいる 間伐材の有効利用が進んでいる 林業従事者が拡大している 植樹活動が盛んになっている	森林に関係して生計を立てている人が多くいる 森林の良さ(CO2吸収、森林浴、憩いの場)が理解されている	木質バイオマスが市のエネルギー源として使われている 森林事業者が持続可能に活動している 手入れがされていない森林がない(少なくとも10年間隔で間伐) AI活用によって森林経営が活性化している プラスチック製品がすべて木材に 干拓地域や平野部の森林化が進んでいる 水質源としての森のダムが活用されている	海から山まで海と山の豊かさが支えあう森林資源を増やすことが佐賀市民が森林や活動に携わり、森林資源が活用されているまち
	消費・生活者	佐賀市産の木材による住宅が増えている 休日は森へ行く人が増えている	森と都市とのつながりが深まっている 森林が子供の遊び場になっている		
	制度など	山から海まで連続した森がある	街中の緑もたくさん増えている	有明海の沿岸はすべて海岸林に	